

No.8 穂高・保高宿地区

—— 千国街道・塩の道の宿場を訪ねて ——

「塩の道」とも称される松本と糸魚川を結ぶ千国街道。その松本宿から数えて3番目の宿場がここ保高（穂高）宿です。

かつては日本海から海産物、内陸からは麻や木綿、木炭などを運ぶ街道の宿として発展。明治後期以降はとくに活況で、養蚕やワサビ栽培の発展と、それを売買する商人たちにより、現在旧道と呼ばれているメインストリートのほか、明科方面へ抜ける狐小路などとはとてもにぎわっていました。



旧街道沿いのまちなみ



碌山美術館本館（国登録有形文化財）



裏路地の懐かしい風景

◆コースタイム ※時間は歩速 3km / 毎時としての目安です（休憩含まず）。

スタート 穂高神社→約0.6km*12分→十王堂→約0.5km*10分→井口喜源治記念館→約1.0km*20分→穂高公園→約0.7km*14分→旧若松屋→約1.2km*24分→碌山美術館→約0.4km*8分→穂高駅→約0.3km*6分→ゴール 穂高神社 【合計】約4.7km*1時間34分



明治42年（1909）建立の穂高神社の石造大鳥居



見どころがいっぱいの穂高神社



明和6年（1769）作の穂高神社若宮社前の狛犬

安曇野豆知識 p.29



駅前通りにある石造物群

穂高神社

日本アルプス総鎮守の神として名高い神社です。祭神の穂高見神と綿津見神は海人族である安曇（阿曇）族の祖神とされる海神で、この地に定着した安曇族と穂高神社の密接な関係を示しています。正確な創建年は不明ですが、平安時代の「延喜式神名帳」に記載があり、古代からの大社であることが知られます。

本殿

20年に一度の「大遷宮」で本殿の造営が執り行なわれ、その間に二度の小遷宮が行なわれます。毎回新たに造営されるのは常に中殿（穂高見神）で、中殿の鯉木は他に例を見ない特徴のある形式となっていて、穂高造と称されています。



祭神

中殿：穂高見神
左殿：綿津見神
右殿：瓊瓊杵神
別宮：天照大御神



木造の大鳥居

大きな両部（四脚）鳥居で建立年代は不明ですが、明治22年（1889）の大遷宮祭に発生した境内の火災で受けた焼け跡が南側の柱上部に残っており、少なくともそれ以前の建立であることは確かです。



お船祭り ※長野県無形民俗文化財

毎年9月26～27日に行なわれる例大祭の御船神事（通称「お船祭り」）は、大きな船形の山車をぶつけあう勇壮な祭りです（お船の引き廻しは27日、26日は神事のみ）。

9月27日は安曇族の祖である阿曇比羅夫が天智2年（663）の白村江の戦いで戦死した日と伝えられ、山車が船形なのは海人族としての記憶が現代に生きている証しと語られています。祭りの様子は神社隣の「御船会館」で詳しく紹介されています。



①矢原堰

江戸前期の承応3年（1654）の開削。全長約8.3km、安曇野で最も古い横堰で、古くはこの堰から分水した水路が保高宿の街道を流れ、飲用水にも用いられていました。☞安曇野ゆかりの人物 p.26



②道祖神

国道裏手の道祖神、馬頭観音、二十三夜塔。道祖神は唐破風形の神殿に鎮まる、仲睦まじい握手像です。



③井口喜源治記念館

教育者・井口喜源治の功績を称えるため設立された記念館。☞安曇野ゆかりの人物 p.27



④わさび田

国道147号から東側一帯にはわさび田が広がり、湧水の水路が幾重にも引き巡らされて、安曇野らしさあふれる風景を楽しむことができます。



⑤穂高駅

穂高駅は大正4年（1915）の開業。穂高神社の最寄り駅であることから駅舎は社殿を模した木造建築となっています。関東大震災復興記念として安曇野から柳が東京へ出荷され、その後、昭和62年（1987）にも100本が出荷されました。駅前広場の柳は、その返礼として最初の出荷分の二世の柳が里帰りして植樹されたものです。



旧街道

かつてのメインストリートだった旧街道沿いには、今も往時を偲ばせる古民家や老舗の商店が軒を連ね、その裏路地には歴史を偲ばせる土蔵や石造物が静かにたたずんでいます。

a 庚申塔

十王堂脇にあります。享保16年(1731)建立の庚申塔は大型で、青面金剛像には彩色が施され威厳を放っています。



b 十王堂

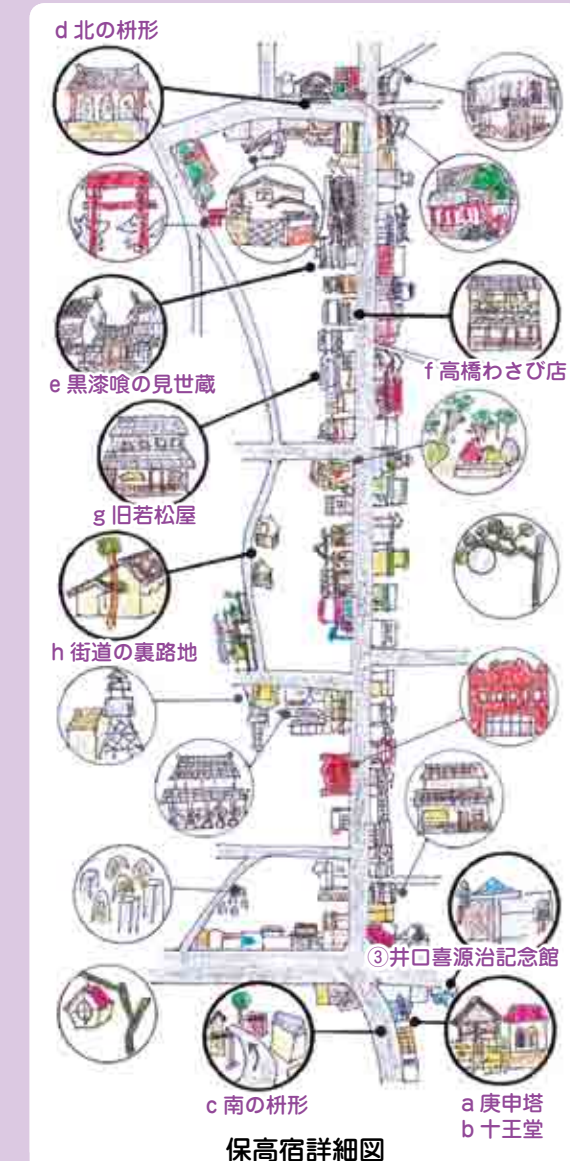
南の枡形脇にある十王像が祀られるお堂。平成になってからの再建ですが、内部の諸像は南北朝時代より伝わるのものとされています。

安曇野豆知識 p.28



c 南の枡形

中世に成立した保高宿(中世は穂高と表記)には、枡形という、有事に敵の侵入から守るため宿場の出入口で道をクランク状に曲げた場所が存在しました。南の枡形には番所があったとも伝えられています。



d 北の枡形

街道北側の枡形は現在丸山菓子舗のある角で、その傍らには道祖神や信仰碑が古くから祀られています。



e 黒漆喰の見世蔵

手間のかかる黒漆喰を使った見世蔵は、ステイタスシンボルとなっています。

安曇野豆知識 p.30



f 高橋わさび店

創業は明治30年(1897)という老舗わさび店。レトロな店構えの看板は、よく見ると当時の右書き文字の跡がまだ残されていることが分かります。



g 旧若松屋

現在は料理店となっている建物は、明治初期の自由民権運動家・松沢求策の生家です。土蔵造りを発展させた見世蔵は、一般の民家建築に比べて防火性能に優れていました。

安曇野ゆかりの人物 p.27



旧若松屋の建具は、開き扉の召し合わせ(重なる部分)が段形で密閉性を高める構造となっています。

h 街道の裏路地

街道西側の裏路地には土蔵や祠などが建ち並び、静かな小路となっています。



高橋わさび店の電話番号は九番。電話がまだ一般に普及する前は、局番のない番号で十分でした。店のガラス戸にその名残が残っています。